

巻頭言

新生北部眼科



昭和大学
SHOWA University

眼科
薄井 隆宏 講師

昭和大学横浜市北部病院は2001年4月に横浜市北部医療圏の急性期医療を担う中核病院として開院しました。開院時から眼科は併設され、小池正直先生（講師）が科長に着任されました。2010年に藤澤邦見先生が着任され、昭和大学横浜市北部病院眼科（当科）を馬車馬のごとく牽引し、教授に昇進、本院に異動となりました。2020年4月から新体制に移行し、その後を薄井隆宏が引き継ぐ形となりました。私は2000年に北里大学医学部を卒業後、外科に入局。眼科に転科して2002年に昭和大学眼科に入局させて頂きました。眼科診療の研さんを積みながら、今給黎総合病院眼科部長、当科講師と勤めてまいりました。2019年には半年間、昭和大学江東豊洲病院に出向になりましたが、10月には再び昭和大学横浜市北部病院に戻ってまいりました。

当科の手術件数は月に100件程度、外来患者数は1日50～80名程度です。4月から眼科専用の手術室が増設された関係もあり、手術は月曜日から金曜日まで毎日行っております。土曜日にも隔週で手術を行っております。

外来は毎週月曜日から土曜日の午前8時半から正午（実際は15時頃まで、遅いと17時過ぎることも）まで行っております。当科は横浜市都筑区のほぼ中心部に位置し、都筑区の基幹病院になっており、外来診療は白内障、糖尿病網膜症、網膜剥離、緑内障、加齢黄斑変性など多岐にわたっております。手術は白内障手術が1200件/年ですが、網膜硝子体手術（黄斑前膜、黄斑円孔、網膜剥離、増殖硝子体網膜症）も300件/年ほど行っております。網膜硝子体手術には力を入れており、新しい硝子体手術装置であるコンステレーション（Constellation）®とエヴァ（EVA）®で並列手術が可能な設備を整えています。中には重症例も多く、糖尿病網膜症に牽引性網膜剥離、血管新生緑内障を合併した硝子体出血などを確実に鎮静化するよう、他科と連携を取り手術を行っております。また、水晶体脱臼、眼内レンズ（IOL）脱臼にも力を入れており、IOL縫着術、IOL強膜内固定術を20～30件/年ほど施行しております。緑内障に関しても低侵襲緑内障手術（MIGS）を積極的に取り入れ、症例数も増えてきております。現在、常勤医が7名（指導医3名、専門医1名）、視能訓練士7名で業務を行っており、平均年齢もかなり若くなり、新しい眼科の船出でしたが、未曾有の災害（コロナ禍）で出鼻をくじかれた感じになってしまいました。しかし、若い力でこの前代未聞の局面を開いてくれると信じてやみません。

微力ながら、横浜市北部地区の眼科診療に寄与出来るよう努める所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。



- P1. 【巻頭言】「新生北部眼科」
- P2. 【医学講座コーナー】当院における防災対策について
- P3. 【医学講座コーナー】当院における防災対策について
- 【TOPICS】9月1日は「防災の日」です
- P4. 【TOPICS】秋分の日病院食について
- 【お知らせ】がん患者サロン「きぼう」開催中止について
- 【お知らせ】中央棟地下駐車場の閉鎖について
- P5. 【患者さんからのご意見・ご要望】
- P6. 【TOPICS】当院へのご支援の御礼/ 【編集後記】

医学講座コーナー 当院における災害対策について

(救急センター 八木 正晴 准教授)

昭和大学横浜市北部病院の災害対策室長の八木正晴です。こんにちは。沖縄だとハイサイですね。私は沖縄出身ではありませんが、9年間沖縄県で救急医療や病院前救急（ドクターヘリやドクターカーですね）、災害医療に従事してきました。3年前に母校である昭和大学に戻り、今はこの昭和大学横浜市北部病院に救急医として勤務しています。よろしくお願いします。ちなみに出身は北海道です。今回、災害対策について説明したいと思います。

災害対策と言っても、様々なフェーズがあります。まず、①個人レベルでの災害対策、そして②病院の災害対策、③地域の災害対策、④日本全体の災害対策の大きく4つに分けられるかと思います。これらの4つは別々のものではなく、それぞれが絡みあって存在しています。そして重要なのは、病院や地域の復興までも考えておく必要があることです。政府の推奨するBCP(Business Continuity Planning)ですね。ここでは、①と②を主に説明します。

まず①個人レベルの災害対策ですが、もちろん自身や家族を守るためのものです。まず個々の安全が確保されなければ病院も地域も安全は確保されないのが最も重要と言えるでしょう。

突然ですが、もし今震度6以上の地震が起きたらあなたはどのような行動をとりますか？

まず自分と家族の安全を確保してください。自宅が危険なら避難所へ行きましょう。その時に持っていくものをどのくらいの時間で用意できますか？そもそも何を携えていけばいいのでしょうか？最近では、災害用バッグも色々な種類が販売されていますので、家族の人数分用意しておくのもいいでしょう。用意しないまでも何を携えていくのか、それらがどこにあるのかはわかっていないと、急な避難の場合、着の身着のまま避難しなければならなくなります。常用薬のある方は、まとめて持っていけるようにしておくのが便利です。避難したら、情報収集をしましょう。ラジオや避難所の掲示板で情報が得られます。

私は医師で災害担当ですから家族の安全を確保した後、病院へ向かい病院の災害対策を始めます。病院では、災害が発生した場合、災害時に病院内にいる患者さんとその付き添いの人たちと職員の安全確保と、院外からの被災者の受け入れを考えます。建物の被害が大きい場合は、避難を考えなければなりません。横断的な評価と判断、指示命令システムが必要になるため、院内に災害対策本部を設置します。同時に横浜市や神奈川県にも災害対策本部が設置されます。私たちは、院内の情報を収集しながら市町村とも連携して災害に立ち向かうのです。当院は、災害拠点病院であり、DMAT（Disaster Medical Assistance Team）も所属している病院です。ですので、横浜市が被災すれば、応援を受ける立場に、隣県などで災害が発生すれば応援にも行きます。最近では、地震や台風や風雨の被害が増えていて、その度にDMATが被災地へ応援に行っています。先日の熊本の豪雨災害にも近隣のDMATが出動していました。



医学講座コーナー 当院における災害対策について

しかし、いくら増加しているとはいえ災害が日常的に発生しているわけではありません。いざと言うときのために、災害拠点病院では、災害対策本部立ち上げ、入院患者や職員の安全確保、被災者の受け入れ訓練を定期的に行います。病院単位で行う訓練と、県で行う訓練、日本全国規模で行う訓練があります。県と全国で行う訓練には、毎年当院の DMAT メンバーも参加しています。全国で行う訓練の場合は、他県 DMAT の受援訓練も行います。当院でも過去に災害対策本部を立ち上げる訓練をしましたので、今年は本部を立ち上げて、被災状況を確認し、院外からの被災者の受け入れを行う訓練を開催する予定です。コロナウイルス感染症がまだ油断できない状況ですので、規模は縮小して行いますが、訓練の様子はまた院内外に公表していきたいと思っています。このように訓練を行うことで、実際に災害が起こった時に、自分たちだけでなく、地域の皆さまの命を守ることにつながると信じています。

Time	発	受	
9:17	✓		赤エリヤ 受入可連絡 → 指定所
9:18		✓	黄エリヤ Dr.サ.ホ (木下 Dr.) 行く
9:23		✓	DMAT 9:35 着予定 → 赤エリヤ 要請
9:37	✓		④45分入院依頼 SWA (今)
9:41	✓		頸椎カラー依頼
9:48	✓		オパの種類の確認
9:52		✓	DMAT 3隊 着 → 指定所より
9:52	✓		CT 2件依頼はもう
9:53	✓		CT 1件
9:54	✓		足橋と DMAT 現状確認

(災害現場用)	
No. 6	氏名 (Name) 山田 太郎
年齢 (Age) 性別 (Sex) 65 男 (M)	電話 (Phone) 030-8808-0808
住所 (Address)	トリアージ実施者氏名 片野 幸花
トリアージ実施月・時刻 8月 31日 9時50分	収容医療機関名 191番 宇都宮
搬送機関名	トリアージ実施場所 日本赤十字社 支部第 救護所
診療内容 1 胸大出血	処置内容 1 2 3 4 5
血液型 型 ()	認定者名 ()
トリアージ区分 0	1

<クロノロジー>

時間毎に起こったことや行ったことをひたすら記録します。

この記録が後で重要になります。

<訓練で使用したトリアージタグ>

【TOPICS】9月1日は「防災の日」です

今から97年前の大正12年(1923年)9月1日に起きた関東大震災に由来し、9月1日は「防災の日」として定められています。

「広く国民の一人一人が地震や台風、高潮や津波などの災害に対して認識を深め、これらの災害に対処できる心がまえを準備するため」に設けられました。この機会に非常用持ち出し品の点検や避難場所・避難経路の確認など、身の回りの災害対策を見直してみませんか。

また、防災の日を含めた1週間が「防災週間」と取り決められ、例年各地で防災をテーマにしたイベントや防災訓練などが実施されています。当院でも毎年9月に防災訓練を実施していますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期しております。



【TOPICS】秋分の日の病院食について

残暑も日ごとにやわらぎ初秋の季節となりました。9月22日は秋分の日です。秋分の日は、毎年同じ日ではなく天文学上で赤道と黄道が交わる部分の事を「秋分点」と言い、その秋分点を太陽が通過する日を秋分と呼び、昼と夜の日照時間がほぼ同じになるとされています。

秋分の日の前後3日間は、お彼岸と言い祖先をうやまい故人をしのぶ日とされています。

その秋分の日にお供えするおはぎに使用する小豆の赤い色は、邪気を祓い災難から身を守ると言われています。秋に咲く萩の花に見立て作られたものが「おはぎ」、春の牡丹の花に見立てたものが「ぼたもち」と呼ばれています。

秋分の日に、当院も季節献立のお食事を提供予定です。

ふっくらと炊き上げた栗ご飯、脂がのった秋刀魚の塩焼き、季節の野菜を使用した炊き寄せ、小豆いっぱいのおはぎをご用意させていただきます。お食事を通じて秋の訪れを感じていただければ幸いです。季節の変わり目、お身体に気を付けてお過ごし下さい。

(栄養科 森下 美智子)



※写真は昨年度のものです。

がん患者サロン「きぼう」開催中止について

当院では、がん患者さんやご家族が悩みや不安を分かち合い、気軽に集う語らいの場として、がん患者サロン「きぼう」を開催しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、12月までの開催を中止することとなりました。1月以降の開催については、現在のところ未定ですので、改めてお知らせいたします。

中央棟地下駐車場の閉鎖について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出入口を制限しております。中央棟地下駐車場についても、当面の間 閉鎖しております。

お車でお越しの際は、西棟地下駐車場をご利用ください。西棟地下駐車場の場所については、右図をご確認ください。

お手数をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどお願いいたします。



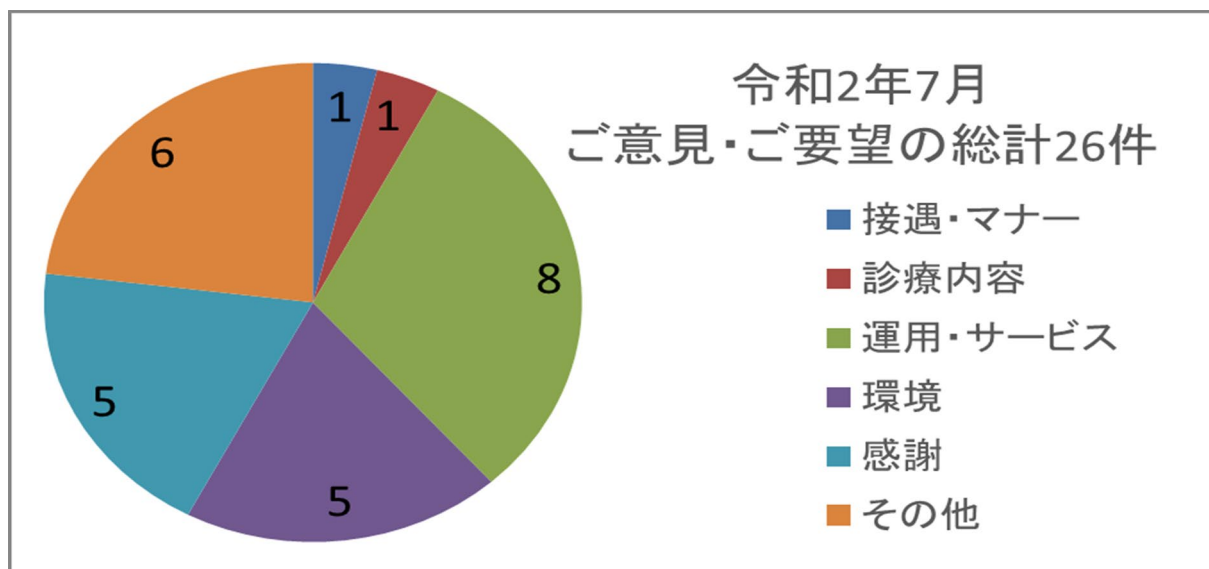
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
コロナの状況の中、入院時の持ち込み品がかなり制限されていました。 これまでの経験から必要な物を持参したのですが、ほとんどがダメで身内が持ち帰りました。 スタッフの皆様には大変お世話になっていますが、事前に説明と注意があれば、より良かったと思います。	入院の際に持ち込める物については、入院前にお渡ししている冊子「入院のご案内」の「入院時の持ち物」に記載しているとおり、入院生活品等に制限させていただいております。この点について、ご説明が不足しており申し訳ございませんでした。 また、8月15日現在、新型コロナウイルス感染症対策として、面会を原則禁止とさせていただいております。そのため、入院に必要と思われるものは、入院時にすべてお持ちいただくようお願いしております。 お手数をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどお願いいたします。
1階西口側出入口の閉鎖理由は何ですか。	新型コロナウイルス感染予防のため、出入口を制限しております。中央棟西口についても、当面の間 閉鎖しております。患者さんの乗降につきましては、地下1階にて行なうようお願い致します。 中央棟と西棟への行き来につきましては、2階通路からのご移動をお願い致します。 お手数をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどお願いいたします。



当院へのご支援の御礼



＜横浜市立茅ヶ崎中学校からいただいたメッセージ＞



＜ご寄付いただいたハーゲンダッツ ギフト券＞

引き続き多くの方から当院にご支援をいただいております。マスクやフェイスシールドをはじめ、飲食物や日用品のご寄付もたくさんいただいております。また、横浜市立茅ヶ崎中学校からはメッセージをいただきました。新型コロナウイルスが流行するなか、医療に従事する者への感謝の言葉が記載されています。当院正面玄関の回転扉にいただいたメッセージを掲示しておりますので、ぜひご覧ください。

なお、ご支援の詳細は当院ホームページでも掲載しております。

(<http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>)

当院へご支援くださった皆様へ、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

編集後記

だんだんと日が暮れるのが早くなり、秋を身近に感じるようになってきました。秋といえば、お月見、十五夜、「中秋の名月」が思い浮かびます。中秋の名月とは旧暦8月15日のことを示し、「一年で一番美しい」といわれる月が夜空に浮かぶ日です。今年の中秋の名月は10月1日と遅めですが、9月に入ると空気が澄み渡り月が鮮やかに見えるため、十五夜に限らず美味しいものを添えてゆっくり秋の夜長を楽しんでみてはいかがでしょうか。外出自粛が続いている中、気分転換にもなると思います。寒くなるまでのひと時、秋の風情を楽しんでください。

(薬剤部 木村祐子)



北部病院だより 第147号
2020年9月1日発行

発行責任者 門倉 光隆 (昭和大学横浜市北部病院長)
編集責任者 緒方 浩頭 (広報委員会 委員長)
発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)

URL: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。